

2015 年度第 2 四半期 決算説明会 Q&A

Q: 操業度の想定を教えてください。

A: Q2 の操業度は全社が 115%(20 日ベース)、MLCC が 100%(27 日ベース)となりました。Q3 は全社が 110%、MLCC が 95%を見込んでいます。製造高は Q3 が 3,200 億円、Q4 が 2,670 億円を見込んでいます(1\$=115 円前提)。Q2 の実績としては 3,470 億円でした。

Q: 来期に向けた SAW フィルタ、MLCC の需給の見方を教えてください。

A: SAW フィルタは、設備投資は行っていますが、中国での 5 モード化の進展が加速しており供給がタイトな状況です。来年も SAW フィルタの供給はタイトな状況が続くと見込んでいます。

MLCC 全体ではないが、来期も小型大容量の最先端領域については 20%程度の伸びが見込まれるため、設備投資を行っていきます。この領域に関しては需給のバランスが崩れるということは考えていません。

Q: 来期の搭載金額のアップサイドとしてはどのような要因があるか教えてください。

A: スマートフォン向けでは MLCC、SAW フィルタ、コイルを中心に来期も数量で 10~20%程度伸びると見えています。値下がりはあるものの高付加価値な製品なことから売上の伸びを期待しています。

Q: 供給がタイトな SAW フィルタ、MLCC について、設備投資の増額を行う計画はありますか。

A: 今期は通期で MLCC + 10%、SAW フィルタ + 30%の能力増強を計画しています。MLCC は全体で 10%なので最先端の領域はもう少し高い伸びを計画しています。この計画を変更する予定はありません。

Q: 来期中国で CA が本格的に導入された場合、SAW フィルタなどの部品がタイトになることも考えられますが、どのようにキャパシティマネージメントを行っていく予定としているか教えてください。

A: まだ予算策定しているわけではありませんが、スマホ一台あたりの員数増加と生産台数とシェアの兼ね合いで決まってくると考えています。設備投資を行う際にはシェアアップ前提で行うことはせず、来期、最先端の MLCC、SAW フィルタ、コイルなど搭載数が増えると思込まれているものを中心に能力増強を行っていきたいと考えています。

Q: 自動車の下期の需要の見通しを教えてください。

A: 上期比 +11%の伸びを見込んでいます。コンデンサなどの汎用部品が中心になるので台数や個別得意先の生産動向にはそれほど左右されず堅調に推移すると見えています。

当 Q & A に記載されている、当社又は当社グループに関する見通し、計画、方針、戦略、予定、判断などのうち既に確定した事実でない記載は、将来の業績に関する見通しです。将来の業績の見通しは、現時点で入手可能な情報と合理的と判断する一定の前提に基づき当社グループが予測したものです。実際の業績は、さまざまなリスク要因や不確実な要素により業績見通しと大きく異なる可能性があります、これらの業績見通しに過度に依存しないようお願いいたします。また、新たな情報、将来の現象、その他の結果に関わらず、当社が業績見通しを常に見直すとは限りません。実際の業績に影響を与えるリスク要因や不確実な要素には、以下のものが含まれます。

(1) 当社の事業を取り巻く経済情勢、電子機器及び電子部品の市場動向、需給環境、価格変動、(2) 原材料等の価格変動及び供給不足、(3) 為替レートの変動、(4) 変化の激しい電子部品市場の技術革新に対応できる新製品を安定的に提供し、顧客が満足できる製品やサービスを当社グループが設計、開発し続けていく能力、(5) 当社グループが保有する金融資産の時価の変動、(6) 各国における法規制、諸制度及び社会情勢などの当社グループの事業運営に係る環境の急激な変化、(7) 偶発事象の発生、などです。ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

当 Q & A に記載されている将来予想に関する記述についてこれらの内容を更新し公表する責任を負いません。